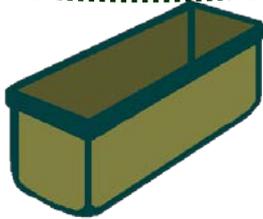
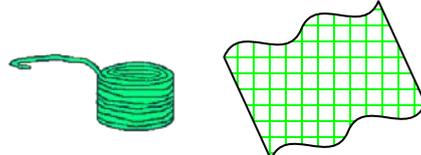
育ててみよう！緑のカーテン　ゴーヤーの育て方

◎準備するもの◎

深めのプランター

30 ㎝以上の深さがあり容量が20ℓ以上のもの　**ゴーヤー1 株に対して容量 20ℓが目安です**

ネットやロープ、支柱など

網目 10 ㎝のネット

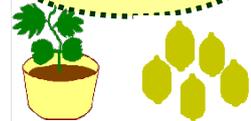
ネットを支える支柱は必要に応じて 2～3 本用意します

野菜用の培養土(肥料が入っているもの)など

大粒の赤玉土など

肥料

苗または種

葉をたくさん茂らせたい場合は窒素（N）の多いものを使います。

その他、スコップ、ジョウロなどを使います

※初めて育てる場合は、苗からが育てやすいです。苗を選ぶ場合は、茎が太く葉が傷んでないものを選んでください。

種から育てる場合

気温 25 度を目安に種まきをします。種は一晩水につけておき、水に沈んだ種だけを使います。種を蒔いて軽く土をかぶせ、水やりをします。発芽するまでの期間は種により差があり、１週間から１ヶ月くらいかかります。植え替える場合は、本葉が２枚から４枚になった頃が目安です。

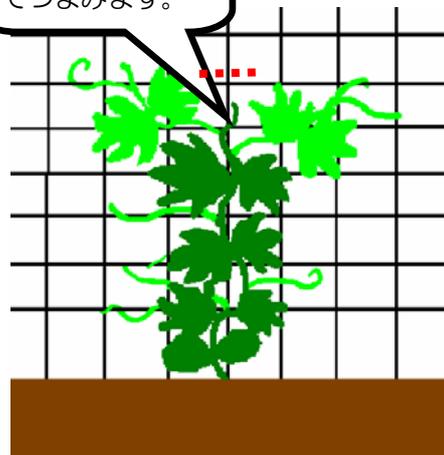
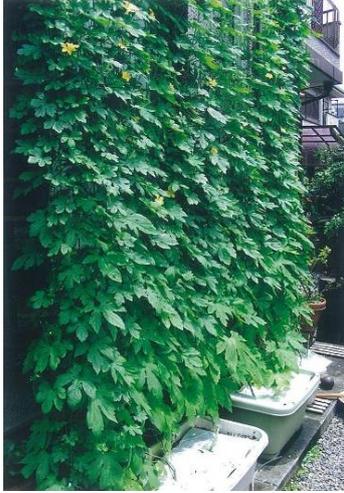
左：ゴーヤーの発芽の様子。カップは乳飲料の空き容器に穴を開けた物を使っています。
右：本葉が２枚出た写真です

★ゴーヤーの育て方★

1　植え付け
ゴーヤーは日当たりが良いところで育ててください。
プランターの一番下に、大粒赤玉土を敷きます。その上に野菜用の培養土をふんわりと入れます。
苗を植えるときは、苗と苗の間を 30 ㎝くらい離して植えてください。

2　ネットと支柱について
つるが伸びる前にネットを準備しましょう。ネットは網目が１０㎝くらいのものが、風通しが良く、つるが巻きつきやすいようです。
ゴーヤーが生長し、ネットに巻きはじめると、ネットがどんどん重くなるので、ネットの上と下をしっかり固定してください。

3　苗が小さいうちは
植えたばかりの頃は、苗が小さく風で倒れて折れることがあるので、園芸用の細い支柱（割り箸でも可）を根から少し離して立て、柔らかいビニール紐などで結びます。支柱の先端は、ネットに結んでおいてください。大きくなってきたら、紐と支柱は外します。
←細い支柱を立てたゴーヤー

4　つるが伸びてきたら
ゴーヤーの本葉が５～６枚になってネットに巻きつき始めたら、本葉から伸びたつる（親つるといいます）の先端をつまむ(摘心といいます)と、わきから新しいつる(子つるといいます)が伸びてきます。つるが増えると、実の数が増えやすくなります。
摘心をすると横に広がりやすくなり、摘心をしないと縦に伸びていきやすくなります。

5　大きくなってきたら

市販の培養土には元肥（もとひ）が含まれていますが、花が咲きはじめたら追肥をします。ゴーヤーの様子をみながら肥料を追加していきます。肥料の種類によってあげ方が違うので、取扱説明書をよく読んであげてください。

　水やりは、プランターの場合、真夏は朝夕 2 回が目安です。

　また、プランターをコンクリートの上に置く場合、日中の熱でゴーヤーが傷んでしまうことがあるので、「すのこ」などの上にのせることをお勧めします。

　上は、カーテン講習会受講者から送られてきた写真です。土の上に、乾燥防止のためのシートが敷いてあります。「水やりの量が多くて大変」という方は参考にしてください。

6　収穫

ゴーヤーの実は開花後 10 日から２週間位で収穫すると柔らかい実が食べられるようです。

7　秋になったら

ネットなどをはずし来年に備えましょう。熟して黄色になったゴーヤーから種を採取して、種のまわりの赤い実を洗い流し、風通しのよいところで乾燥させて保管し、来年はその種で育ててみませんか？

●ゴーヤーを育てた土をもう一度使おう!●　～土のリサイクル方法～

1　プランターの中の土を粗い目の園芸用ふるいにかけて、根やごみなどを取り除きます。ごみを取った土を黒いビニール袋に入れて口を縛り、直射日光が当たる場所において一週間程度かけて熱消毒をします。

地植えの場合は、「天地返し」という方法で土を５０ｃｍくらい掘り起こし、表面と地中を入れかえます。この時、大きな根を取り除いてください。

2　ゴーヤーやヘチマなどのウリ科植物を育てた土の pH は酸性に傾いているので、堆肥や腐葉土を入れる１週間以上前に有機石灰や苦土石灰などで中和します。

3　肥料分や有機質を補うために、苗を植える１か月位前から堆肥や腐葉土などで土壌改良をしておきます。

※苦土石灰と化学肥料を同時に撒くと、土の中でアンモニアガスが発生して植物の生育を妨げることがあります。
化学肥料を使う場合は、苦土石灰を撒く日との間を１週間以上あけてください。

他の植物でも緑のカーテンを作ってみよう！

アサガオ(写真は江戸変化アサガオ)　開花期：７～９月　　ヒルガオ科
昔から日本の夏を彩る花として、また小学生が育てる植物として有名です。緑と花のいこいガーデンでは江戸変化アサガオに挑戦しました。

平成 26 年に環境課では、国立大学法人九州大学から提供された種子 12 種類の栽培に挑戦しました。九州大学ではアサガオの変異系統（へんいけいとう）（変化朝顔）を現在 1000 系統以上保存しており、これらの変異の多くは江戸時代(文化文政期)に起こり、現在まで保存されてきたものです。その種子の一部の提供を受け、12 種類の栽培に挑戦しました。下の写真は 12 種類のうちの一部の花です。どれも朝顔の花で、八重咲きや、花弁が来切れて咲くものなどがあります。葉の形も、丸いもの、斑入り、縮れたものなどがありました。（全て区役所緑と花のいこいガーデンで撮影）

ほかに花が楽しめる植物としては、クレマチス、モッコウバラ、スネールフラワー、ツンベルキアなどがあります。昔から夏に育てられていた植物では、ヘチマやヒョウタンなども緑のカーテンになります。
食べられる植物では、キュウリやサヤエンドウ、ツルムラサキなどが緑のカーテンにすることができます。